

流域治水協議会の経過報告と今後の予定について

令和5年3月6日

後志利別川流域治水協議会の経過報告と今後の予定

令和2年7月6日

後志利別川水系流域治水プロジェクト[素案]公表

- 流域全体で早急に実施すべきハード・ソフト一体の事前防災対策の検討を流域毎に開始
- 流域で行う流域治水の全体像のイメージ

令和2年9月23日

第1回 後志利別川流域治水協議会

- 協議会設立
- 目的・進め方の共有
- 流域内関係機関の対策・取組を共有
- 後志利別川流域治水プロジェクトの中間とりまとめ

令和3年3月22日

第2回 後志利別川流域治水協議会

- 流域で行う流域治水の全体像の共有
- 農業部門、林野部門に関わる関係機関参画
- 規約改正（構成員追加、幹事会設置）
- 後志利別川流域治水プロジェクトの策定

令和3年3月30日

後志利別川流域治水プロジェクト公表

- ・令和3年7月26日（第1回幹事会）
- ・令和4年1月19日（第2回幹事会）

令和4年3月18日

第3回 後志利別川流域治水協議会

- 幹事会報告
- 規約改正（構成員追加）
- プロジェクトの取組状況の共有
- 後志利別川流域治水プロジェクトの充実

令和4年3月31日

後志利別川流域治水プロジェクト[拡充版]公表
外水氾濫の水害リスクマップ[暫定版]公表(国交省)

- ・令和4年9月2日（第3回幹事会）
- ・令和5年1月18日（第4回幹事会）

令和5年3月6日(今回)

第4回 後志利別川流域治水協議会

- 幹事会報告
- プロジェクトの実施状況と実施予定の共有

令和5年3月下旬

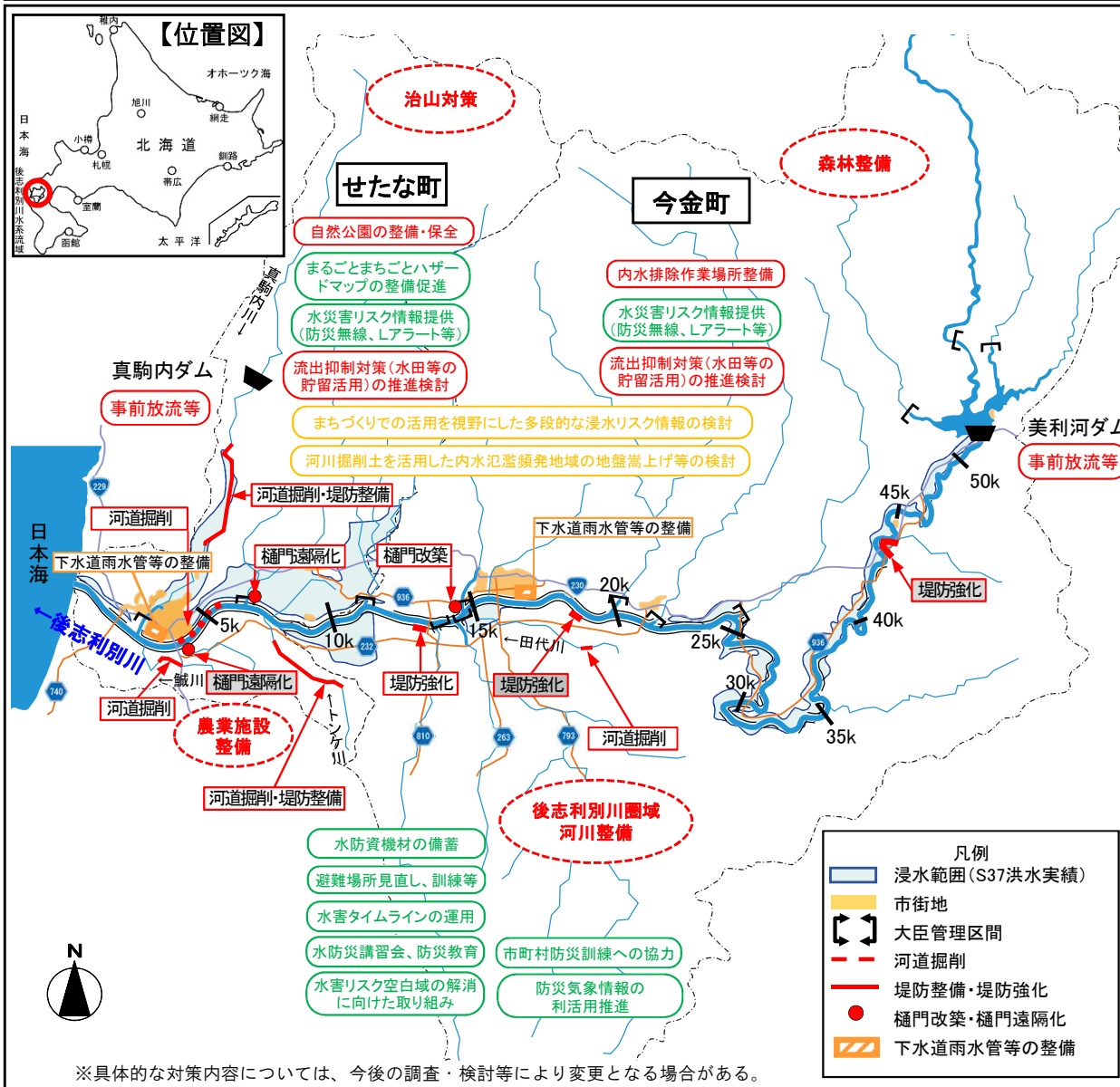
後志利別川流域治水プロジェクト公表【更新】

※ 担当者と調整

後志利別川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～全国有数の清流が育む地域の産業と暮らしを守る治水対策の推進～

○令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、道南地域を代表する穀倉地帯を貫流する後志利別川水系においても、水田等の貯留機能活用にむけた調整や被害軽減のための避難等の対策を含む事前防災対策を進める必要があり、国管理区間においては後志利別川の堤防が決壊し、流域で甚大な被害が発生した戦後最大の昭和37年8月洪水と同規模の洪水を安全に流下させ、流域における浸水被害の軽減を図る。



● 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- 河川掘削、堤防整備、堤防強化、樋門遠隔化等
- 既存2ダムにおける事前放流等の実施、体制構築(関係者:国、北海道、市町村、土地改良区など)
- 内水排除作業場所の整備
- 治山対策
- 森林整備
- 流出抑制対策(農地等活用)の推進検討
- 下水道雨水管の整備等

河川掘削、堤防整備、堤防強化、樋門遠隔化等(函館開発建設部、渡島総合振興局)

既存2ダムにおける事前放流等の実施、体制構築(関係者:国、北海道、市町村、土地改良区など)

流出抑制対策(水田等の貯留活用)の推進検討(せたな町、今金町、土地改良区など)

● 被害対象を減少させるための対策

- まちづくりでの活用を視野にした多段的な浸水リスク情報の検討
- 河川掘削土を活用した内水氾濫頻発地域(農地等)の地盤嵩上げ等の検討等

農地の嵩上げ ※イメージ
河川掘削土を活用した内水氾濫頻発地域の地盤嵩上げ等の検討

● 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- 水防資機材の備蓄
- 水災害リスク情報の提供(防災無線、Lアラート等)
- 避難場所・方法の見直し、避難経路検討、避難訓練
- 水害タイムラインの運用
- まちづくりでの活用を視野にした多段的な浸水リスク情報の検討
- 水防災に関する講習会、防災教育の実施
- 的確な水防活動のための水防訓練
- 水害リスク空白域の解消に向けた取り組み
- ハザードマップの周知と住民の水害リスク理解促進の取り組み
- 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進、避難訓練
- 市町村防災訓練への協力
- 防災気象情報の利活用推進等

水災害リスク情報の提供(防災無線、Lアラート等)(せたな町、今金町)

想定浸水深 1.5m
想定浸水深 (Peak Water Depth) 1.5m
この浸水想定は、河川水位が想定水位に達した場合に発生する想定される浸水範囲を示しています。

まちづくりでの活用を視野にした多段的な浸水リスク情報の検討(せたな町)

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

後志利別川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～全国有数の清流が育む地域の産業と暮らしを守る治水対策の推進～

- 後志利別川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、道、町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。併せて洪水時の的確な行動判断のための「流域タイムラインの運用」、「まるごとまちごとハザードマップの整備推進」等によるソフト対策を推進し、被害の軽減を図る。
【短期】 流域の人口・資産が集中するせたな町市街地の浸水被害を解消するため、河道掘削及び堤防整備等を実施。
【中長期】 支川における浸水被害を防ぐため、河道掘削及び堤防整備等を実施し、流域全体の安全度向上を図る。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	流域の人口・資産が集中する後志利別川中下流部を守る河道掘削及び堤防強化等	函館開発建設部	河道掘削、堤防強化等		
	後志利別川圏域の市街地等を守る河道掘削及び堤防整備等	渡島総合振興局	河道掘削、堤防整備等		
	既存ダムにおける洪水調節機能強化のための事前放流等の実施、体制構築	函館開発建設部 せたな町、今金町 等			
	内水による浸水被害から市街地を守るための内水排除対策	函館開発建設部 今金町	調査・検討	内水排除作業場所の整備	
	山地災害から流域を守る治山対策	渡島森林管理署 檜山振興局		治山施設等の整備	
	森林の有する洪水緩和機能の適切な発揮のための森林整備	渡島森林管理署 檜山振興局、町等 森林整備センター		植栽・間伐などの森林整備	
	河川への急激な雨水流出を抑制する流出抑制対策（水田等の貯留活用）の推進検討	せたな町、今金町、 土地改良区 等	広報活動、農家への働きかけ	水田等を活用した雨水貯留の推進	
	浸水被害の軽減を図り市街地を守る下水道雨水管等の整備	せたな町、今金町			下水道雨水管等の整備
被害対象を減少させるための対策	まちづくりでの活用を視野にした多段的な浸水リスク情報の検討	函館開発建設部	調査・検討	浸水リスク情報の提供	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	まるごとまちごとハザードマップの整備促進	函館開発建設部 せたな町	調査・検討	整備・周知	
	被害軽減対策	函館開発建設部、渡島総合振興局、檜山振興局、せたな町、今金町、函館地方気象台	流域タイムラインの運用 等	魚道調査検討	
グリーンインフラの取組	自然環境保全・復元などの自然再生（魚道）治水対策における多自然川づくり	函館開発建設部 渡島総合振興局		河道掘削における表土復元・河畔林の連続性確保	
	魅力ある水辺空間・賑わい創出	函館開発建設部 せたな町・今金町			かわたびほっかいどう等

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

【事業費】

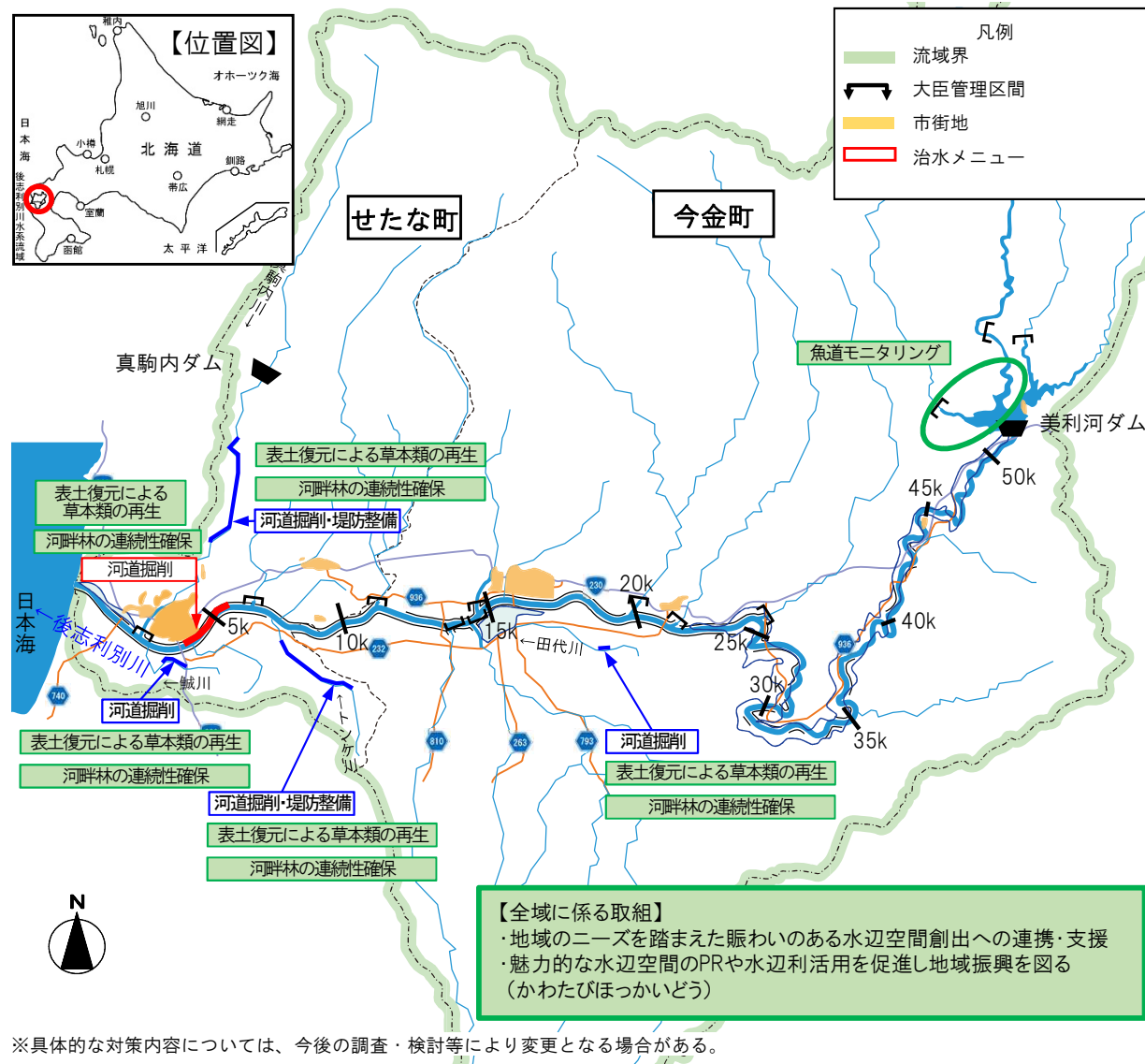
■事業規模	
河川対策 対策内容	（約4.1億円） 河道掘削、堤防整備、 堤防強化、樋門遠隔化 等
下水道対策 対策内容	（約2億円） 下水道雨水管等の整備 等
※1：国・北海道の河川整備計画の残事業を記載 ※2：各市町における下水道事業計画の残事業費（雨水関連）を記載	

後志利別川水系流域治水プロジェクト【グリーンインフラ】

～全国有数の清流が育む地域の産業と暮らしを守る治水対策の推進～

●グリーンインフラの取り組み 『豊かな自然と清流の保全に配慮した多自然川づくりの推進』

- 流域の肥沃な大地と比較的温暖な気候から水田を中心とした農業地帯が広がる北部檜山の社会・経済・文化の中心地域である。また、国土交通省による水質調査では、過去20回の水質日本一に輝くなど、清流に対する地域住民の意識も高いほか、サケ・サクラマスやアユなどの豊富な資源を活かした、増殖事業や稚魚放流活動など恵まれた自然環境資源を誇りを持って次世代に引き継ぐことが重要である。
- サケ・サクラマス等の生息・産卵環境に配慮した河道整備を目指し、今後概ね5年以内に実施する河道掘削後の裸地化による濁水防止対策として、表土復元による草本類の早期再生の取り組みの展開により、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。



●自然環境の保全・復元などの自然再生
・美利河ダム魚道(Ⅰ期)の検証とⅡ期魚道に向けた検討と関係機関との調整

●治水対策における多自然川づくり
・生物の生息環境確保に配慮した河道整備
・河道掘削面への表土敷均しによる、草本類の再生
・河畔林の連続性確保

●魅力ある水辺空間・賑わい創出
・水辺の賑わい空間創出

●自然環境が有する多様な機能活用の取り組み
・小学校などにおける河川環境学習

【全域に係る取組】
・地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携・支援
・魅力的な水辺空間のPRや水辺利活用を促進し地域振興を図る
(かわたびほっかいどう)



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

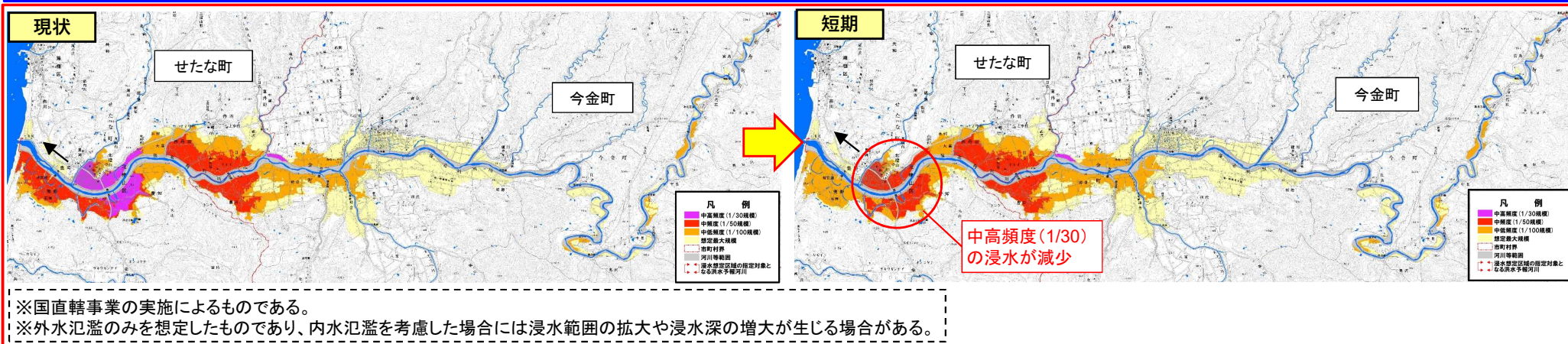
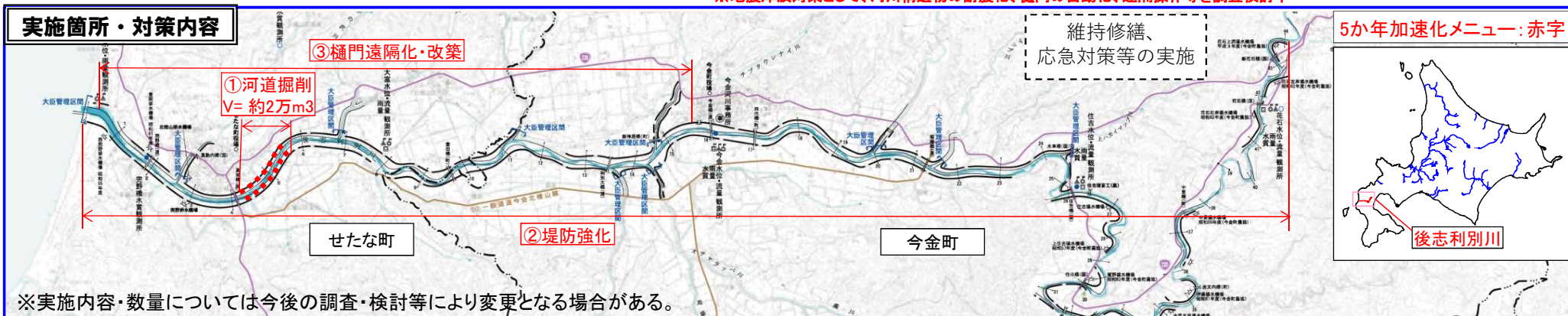
後志利別川水系流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】

～全国有数の清流が育む地域の産業と暮らしを守る治水対策の推進～

○河道掘削のR6完了に伴い、S37.8洪水規模の洪水でもHWL以下で流下させることができ、せたな町（北桧山）市街地の浸水被害解消が可能となる。

短期整備（5カ年加速化対策）効果：河川整備率 約78%→約100%

※河川整備率とは、河川整備計画において定めた河道整備流量を流すことができる断面を確保している国管理区間の割合
※地震津波対策として、河川構造物の耐震化、樋門の自動化、遠隔操作等を調査検討中



区分	対策内容	工程	
		R3	【5カ年加速化対策】 短期(R3-R7年度)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	①河道掘削 0% → 100%	<div style="width: 100%; height: 10px; background-color: red;"></div>	100%
	②堤防強化 0% → 100%	<div style="width: 100%; height: 10px; background-color: red;"></div>	100%
	③樋門遠隔化・改築 0% → 100%	<div style="width: 100%; height: 10px; background-color: red;"></div>	100%

【短期整備完了時の進捗】
 ①河道掘削 100%
 ②堤防強化 100%
 ③樋門遠隔化・改築 100%

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

北海道では全国でも特に気候変動の影響が大きく、更なる対策を推進

後志利別川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～全国有数の清流が育む地域の産業と暮らしを守る治水対策の推進～

戦後最大洪水等に対応した河川の整備（見込）



整備率：100%

（概ね5か年後）

農地・農業用施設の活用



集計中

（令和4年度末時点）

流出抑制対策の実施



集計中

（令和4年度実施分）

山地の保水機能向上および土砂・流木災害対策



集計中

治山対策等の実施箇所（令和4年度実施分）

集計中

砂防関係施設の整備数（令和4年度完成分）

※施行中 集計中

立地適正化計画における防災指針の作成



集計中

（令和4年12月末時点）

避難のためのハザード情報の提供



集計中

洪水浸水想定区域（令和4年9月末時点）

※一部、令和4年3月末時点

集計中

内水浸水想定区域（令和4年9月末時点）

高齢者等避難の実効性の確保



集計中

洪水浸水想定区域（令和4年9月末時点）

※一部、令和4年3月末時点

集計中

個別避難計画（令和5年1月1日時点）

被害をできるだけ防ぐ・減らすための対策

==人口資産が集中する中・下流部の河川整備==



・S37.8洪水への対応と下流市街地の水害リスク軽減に向けた河道掘削について実施中（国管理）

・H22およびH24洪水に対応した河道掘削・堤防整備について優先整備中（道管理）

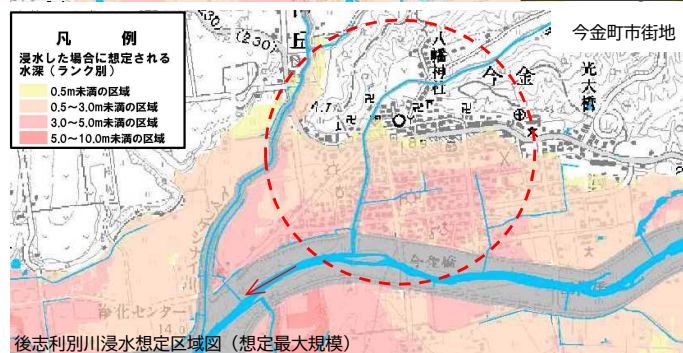
==市街地の浸水被害軽減対策（流出抑制対策）==



・近年降雨による市街地浸水被害が多い地区について雨水下水道管を整備中（せたな町・今金町）

被害対象を減少させるための対策

==公共施設更新に伴う浸水リスクへの対応==



・人口資産が集中する市街地を中心に、今後の公共施設の更新のタイミングにおいて、浸水リスク解消に向けた対策について検討する（せたな町・今金町）

被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

==避難訓練の実施==



・9月の防災週間や町主催のイベント時に、防災訓練や備蓄品の展示による啓発活動を実施（今金町）

・自治会単位での防災訓練に対する支援（せたな町）

==タイムラインの策定・運用==



・H29年9月に流域自治体や気象台を含めた、後志利別川流域タイムラインを策定・運用開始

・一部自治会ではコミュニティタイムラインの作成済（今金町）